

腫瘍は体のどこにでもできることがあるが、顎にも良性腫瘍やがんなどの悪性腫瘍が生じることがある。

小さければ顎を温存した手術が可能。しかし、大きな良性腫瘍や進行した悪性腫瘍の場合には顎の骨を離断する必要がある。顎が切除された後はかみ合わせや顔面の対称性を考慮した再建術が必要になってくる。

再建術としては、チタンプレートのみを用いる場合と、体の他の部分から骨を移植する場合がある。チタンプレートによる再建には

良好な顎の形を再現

再建術

将来的に皮膚からのプレートの露出や破折などが起こる可能性があり、できる限り自分の骨を移植すべきである。

しかし、自分の骨を移植する場合は良好な顎の形を再現することが技術的に難しく、患者さんの満足度の

高い顔の形態(対称性)はこれまで得られなかった。このため、われわれはCTのデータを使って最新のコンピュータシミュレーションを行い、それに合わせたサージカルガイド(骨を切るためのガイド)を3Dプリンターで作製することで、手術中に足の骨である

腓骨^{ヒール}を計画通りにカットして理想的な顎の形を再現している。

位置にインプラントを埋入することで、かむ機能を回復することも可能となっている。

(歯科・口腔外科・矯正歯科 岩井俊憲助教)

〈隔週掲載〉

先進医療を市民へ

横浜市大病院発

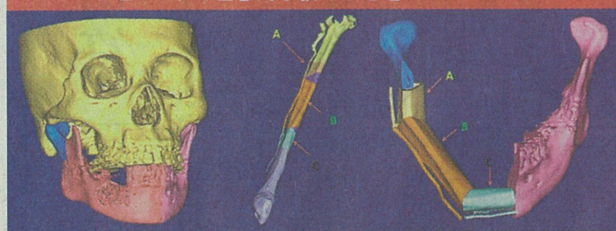
■14■



岩井 俊憲
助教

多くの手術は執刀医の技術や経験によって結果や仕上がりに差が生じるが、コンピュータシミュレーションと3Dプリンターを用いることで、どんな術者でも良好な顎の形態を再現でき、理想的な

コンピュータで理想的な顎の形態をシミュレーション



サージカルガイドで計画通りに骨をカット



計画通りの骨の組み立て